授業づくり研修講座　実践レポート

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　座間市立東中学校　　氏名　新井　つる子

単元名　第２学年　「主張文　推論と対話で考えを広げる」

実践のポイント（工夫）

　・授業の導入として、今回の学習目標を明確にした。推論（本教材では背景や意見を採　　用した場合に予想される状況や新たな課題について、考え判断すること）と対話をす　　ることで、自分の考えを深めて、文章にまとめることを伝えた。対話が苦手な生徒も　　いるので、手順を示したり、対話に入る前に相手の意見に対して、まず反論や思った　　ことを付箋に書かせ、それを目で見てわかるようにして対話を進めた。

 ・教科書の内容を使って練習をし、新たな課題文を用いてさらに考えを広げた。

実践内容

|  |
| --- |
|  学習目標　・自分の立場や考えを事実や事柄を明らかにして、構成を工夫する。　　　　　 ・書いた文章を読み合い、主張や表現の仕方について意見を交流して、　　　　　　 自分の考えを広げる。 １　課題文を読み、問いに対してのＡ・Ｂ・Ｃさんの意見についてそれぞれ課題１， 　　２を考え、自分は誰の行動を支持するか、あるいは誰の行動も支持しないか　　 考える。 ２　４人グループになって、どの人の行動を支持するか、自分が考えた反論や意見 　　をもとに対話を行う。 ３　対話後、問いに対しての自分の意見を書く。 ４　新たな課題文を提示し、問いに対する自分の行動を文章にする。 ５　４人グループになって友達の行動を読み、課題１，２を意識して付箋に意見　　 を書く。その後、一人ひとりの意見に対してプリントに付箋を貼りながら対　　 話する。 ６　対話後、自分の行動の修正を行い、もう一度自分の考えを文章にまとめる。 　　 課題１　その行動のもととなった考えや判断を推論する。　　　　 課題２ それぞれの行動の結果がどうなるか考えてみる。 |
|

振り返り（成果や課題）

　・取り上げた課題文が防災についてであり、実際に起こり得る内容として捉えることが　　でき、予想以上に真剣に自分のこととして、取り組めていた。

　・対話だけでは言葉が残らないので、付箋を活用したことは相手の意見を視覚的に確認　　しながら最終的に練り直した文章を書くときにも役立っていた。

　・日頃から自分の意見を文章に書いたり、意見交換したりすることへの抵抗をなくすこ　　とが大事だと感じた。